

# 知的財産推進計画2026：詳細分析と戦略監査

## 知財政策の「経済政策化」から実効性評価までの完全解剖

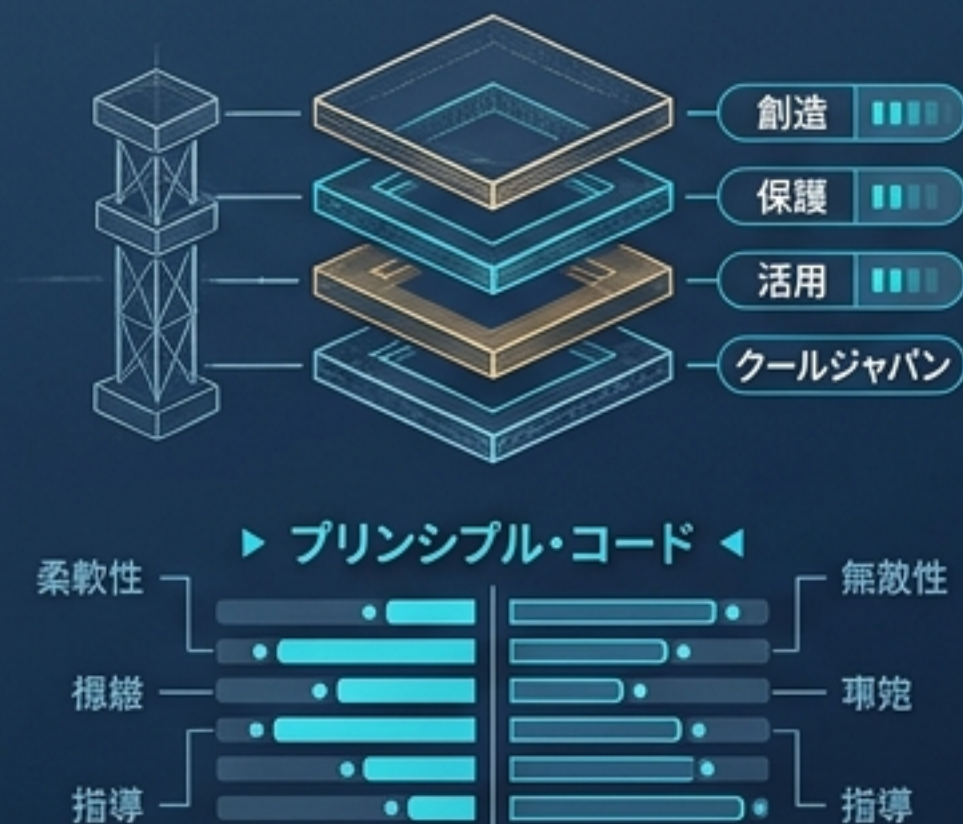
### 1 パラダイムシフト

知財を「権利保護」から企業価値・経済安全保障・成長戦略の中核へ転換（知財政策の経済政策化）。



### 2 4層構造とソフトロー主導

「創造・保護・活用・クールジャパン」の4本柱と10の中核施策。AI対応等は原則（プリンシプル・コード）主導。



### 3 戦略監査の結論

方向性は「A」評価。しかし、ソフトローの限界、クロス・ミニストリーのガバナンス欠如により、実装設計（B-）、法的拘束力（C+）に課題を残す。



	実装設計	ガバナンス
実装設計	B- →	関連の向として護善
法的拘束力	C+ ▲	欠如
ガバナンス	✗ 欠如	クロス・ミニストリー調練の課題

# パラダイムシフト：知財政策の「経済政策化」



従来の「件数行政 (出願数重視)」から「企業価値・投資・利用率・輸出」を成果指標とするパラダイムへの完全なシフト。単独の法改正ではなく、資本市場・AIルール・地域政策を束ねるアーキテクチャである。



# 中核施策のロードマップと実装スケジュール

【資本市場】ガバナンスGL改訂・開示検討  
(内閣府/経産省/金融庁)

▼ Target: 令和8年度中 (2026)

【技術・AI】戦略17分野IPランドスケープ導入  
AIプリンシプル・コード策定 (新規制度設計の中核)

【権利保護】侵害抑止・民事救済強化  
AI声・肖像の無断利用対応  
(法改正継続検討)

【産業支援】スタートアップ・地域中小企業支援  
コンテンツ海外展開・地方創生

▼ Target: 2033年に20兆円目標

【標準化】  
国際標準戦略のフォローアップ

▲ 審査期間平均14か月以内維持

監査メモ: 「短期・中期」表記が大多数を占め、統一的な年限定義が欠如している (工程管理の曖昧さ)。

# 成果指標 (KPI) ダッシュボード: 野心的な目標と現在地

## 無形資産割合 (日経225)



Status: 既に達成も米国比で低位

## GII (イノベーション指数)



Status: 大きなギャップあり

## 日本企業AI利活用率



Status: 中小企業への普及が鍵

## コンテンツ海外市場規模



Status: 約3.3倍の成長が必要

## クールジャパン海外展開



Status: 大規模なスケール要求

## ジャパンサーチ連携



Status: 順調に推移

成果指標は「権利数」から「経済価値」へ移行。しかし、最終KPIまでの因果経路が長いいため途中指標が不可欠。

# ステークホルダー別影響度マトリクス

	上場大企業	スタートアップ	中小企業 (SMEs)	コンテンツ産業
[最大の恩恵 (Benefit)]	<ul style="list-style-type: none"><li>• M&amp;A活性化・企業価値向上</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• 知財プロデューサー派遣・審査支援</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• 知財取引指針による適正取引・価格交渉力強化</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• 複数年・大規模投資による輸出産業化</li></ul>
[潜在的リスク・負担 (Risk)]	<ul style="list-style-type: none"><li>• 資本市場からの過剰現金への説明圧力</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• 特許出願支援だけではサイバー攻撃や契約管理に対応不可</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• AI・営業秘密管理など実務負担の激増</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• AIによる無断学習やデジタルクローン被害</li></ul>
[要求されるアクション (Action)]	<ul style="list-style-type: none"><li>• 取締役会での資本配分と知財・無形資産開示の接続</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• 「出願」から「どの市場でどう勝つか」への知財設計シフト</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• 法務・財務を束ねた伴走支援の活用</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• プリンシプル・コードに留まらない事前許諾・対価還元ルールの要求</li></ul>

# AI・知財ルール国際スタンス比較：日本の「中間路線」



EU

[Regulatory Tool]

Hard Law  
(AI Act)

[Stance]

拘束的・事前規制重視。  
透明性義務と著作権ルールの段階的適用。



米国 (US)

[Regulatory Tool]

司法判断・個別立法  
(NO FAKES Act等)

[Stance]

事後司法依存。  
フェアユースの範囲を巡り訴訟が先行。



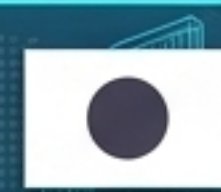
英国 (UK)

[Regulatory Tool]

政策修正中

[Stance]

一時は権利者オプトアウト型に傾くも、創作者の猛反発で後退。



日本 (Japan)

[Regulatory Tool]

Soft Law  
(プリンシプル・コード)

[Stance]

行政協調重視の中間路線。  
事業者の柔軟性を残しつつ対話枠組みを先行。

日本の強みは成長戦略との「統合」だが、  
弱みは拘束力のある共通ルールと執行アーキテクチャの薄さにある。

# 評価の分断：「ソフトロー」先行のジレンマ

## 肯定評価 (市場・権利者側)

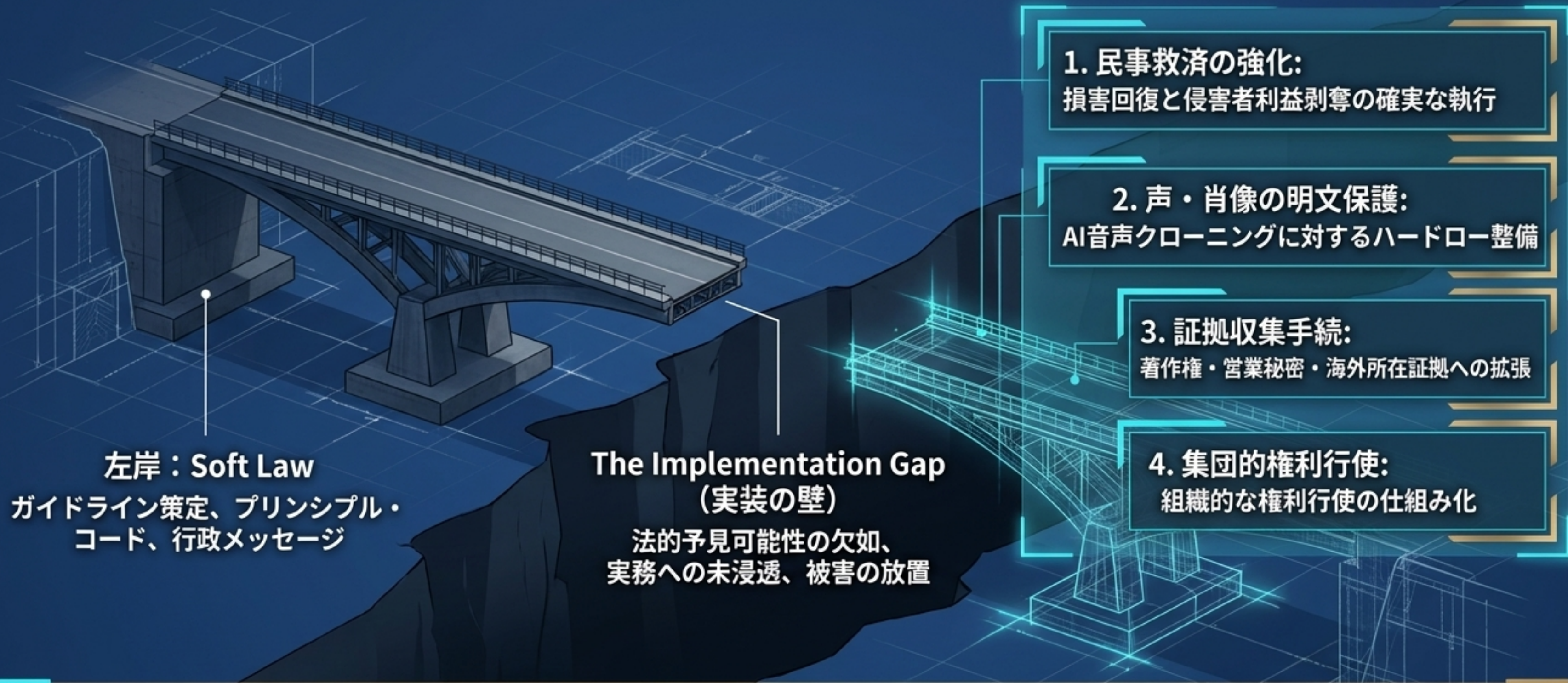
- 投資家・実務家：知財開示強化はM&A活性化・企業価値向上の追い風(過剰現金の資本配分改革)。
- 権利者団体(CODA等)：AI学習の透明化・事前許諾・対価還元の枠組み設置に対する期待。



## 否定・慎重論 (学術・法務側)

- ソフトローの限界：税制や強い仕組みがなければ企業行動は変わらない。
- 事後対処の限界：AIデータ由来の適法性確認は「事前プロセス」が本質。事後フィルタリングでは治療できない。
- 司法のグレーゾーン：現行法制では一律禁止でも自由でもなく法的予見可能性が低い。

# 実装の壁を越える：法制化が急務な4つのボトルネック



「引き続き議論」にとどめず、法務省・文化庁・経産省間で優先順位を絞った立法パッケージへの昇格が不可欠。

# 実行を阻む3つの構造的壁

## Roadblock 1: 省庁横断ガバナンスの曖昧さ



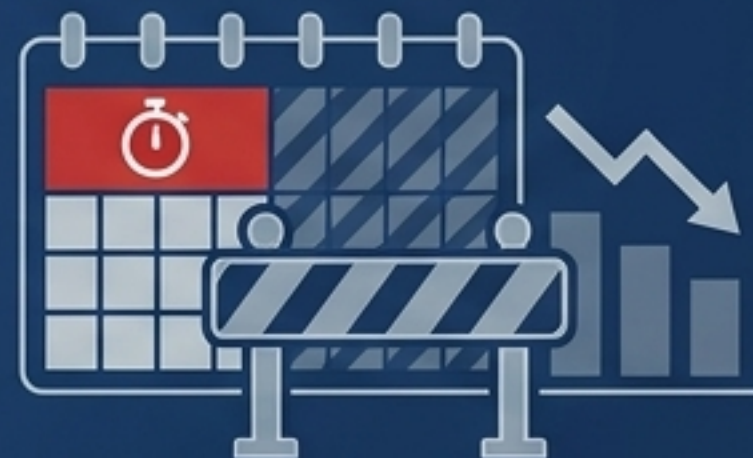
内閣府、経産省、文化庁など多数の省庁が絡む「政策束」の強みがある反面、KPI未達時の「成果責任の所在」がぼやける。

## Roadblock 2: 予算とFTE(人員配分)の不可視化



大規模投資や支援体制刷新を掲げるが、計画全体としての「新規予算総額」「省庁別配分」「人員純増計画」が本文上集約されておらず、妥当性が検証不能。

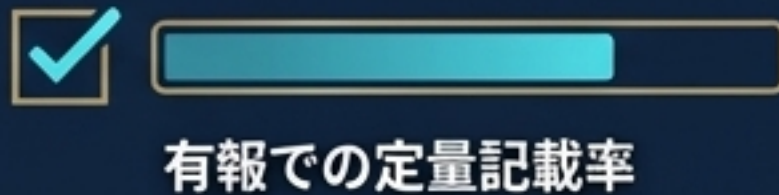
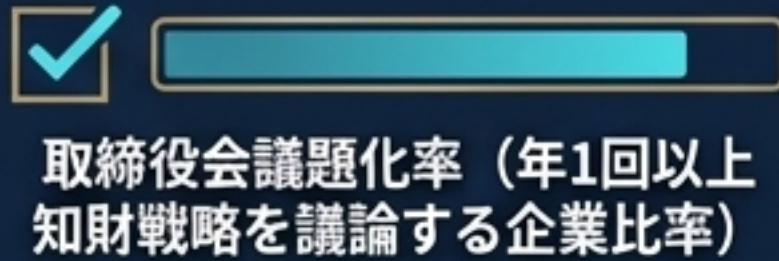
## Roadblock 3: 単年度主義への逆戻りリスク



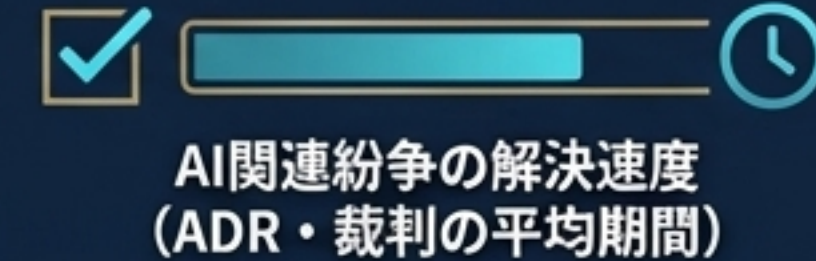
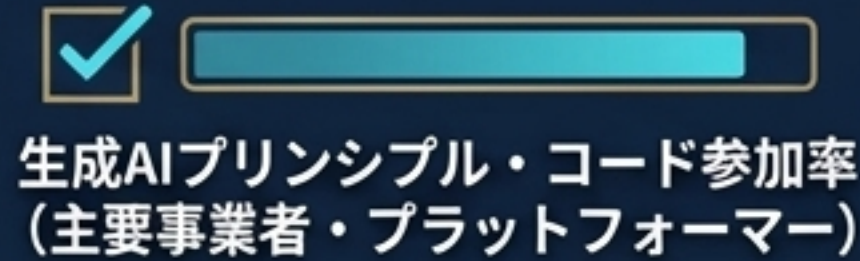
コンテンツ産業の輸出産業化(20兆円目標)には、単年度補助ではなく「複数年・大規模投資」への転換が必須だが、予算執行の担保が不透明。

# 実効性を担保する追加モニタリング指標（提案）

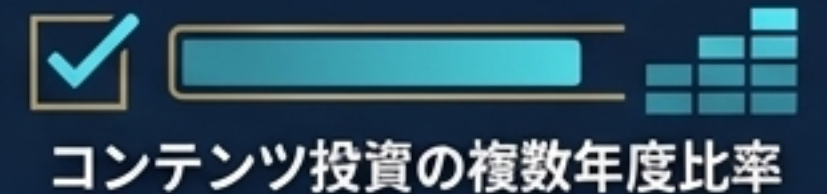
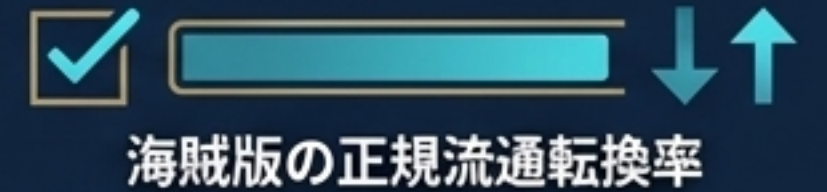
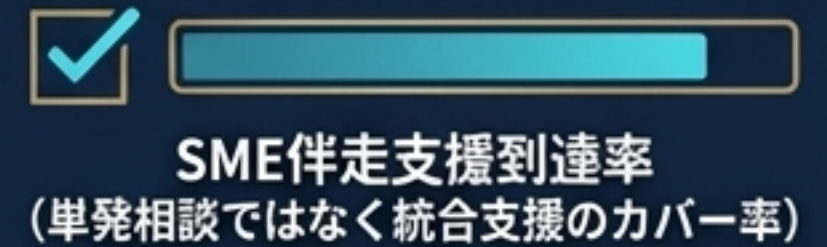
## [開示・ガバナンス]



## [AIルール実効性]



## [支援・執行のアウトカム]



## Key Insight

最終KPI（売上・時価総額）だけでなく、  
制度整備と執行プロセスを測る「途中指標」の義務化が成功の鍵。

# 総合評価と8つの推奨アクション

Report Card

## Verdict: 戦略監査の総合評価

### 方向性 [A]

知財を経営・AI・コンテンツ輸出に接続した点は高く評価。

### 実装設計 [B-]

共通工程管理・統合予算・FTE管理が見えにくい。

### 法的拘束力 [C+]

AI・音声保護・証拠収集の多くが未だ「検討段階」。

## The Action Checklist

- 知財開示方針の制度文書化（令和8年度中）と金融連携。
- AIコードを「理念」ではなく監査・苦情処理を備えた「運用文書」へ。
- 声・肖像のAI無断利用に関する不競法改正等立法骨子の前倒し。
- 民事救済・証拠収集・集団行使の一体的「知財執行強化パッケージ」化。
- 中小企業向け「法務×財務×知財」統合型伴走支援への再設計。
- コンテンツ投資の「複数年投資比率」KPI化。
- 省庁別予算・FTE・未達理由を明記した年次実施報告書の作成。
- 提案途中指標（ADR処理時間、開示率等）のモニタリング義務化。